

市史の小径

第32回

118才 現役のアーチ橋

10

月14日は鉄道の日です。この日新橋―横浜間で日本初の鉄道が開業しました。そこで今月は鉄道についてのお話です。

東海道筋に鉄道を通す目的で私有鉄道の関西鉄道会社が設立され、草津―四日市間の鉄道建設が計画されました。明治22(1889)年12月15日に草津―三雲間は計画区間のなかでも最初に完成し、華やかな開業式典が催されました。そして翌年の2月19日にはつづいて三雲―柘植間が開業し、現在の草津線が全線開通しました。貴生川駅周辺には開通当時のレンガ造りの橋が現役で使用されています。特に国分橋梁とよばれるアーチ橋は非常に個性的な意匠です。トンネル内のアーチ部分と側壁を隔てる継ぎ目にはレンガをギザギザに配置した雁木(がんぎ)の装飾が施され



▽国分橋梁全景(水口町高山)



関西鉄道社紋▽

ています。そして注目すべき点はアーチ橋の上部に関西鉄道の「関」の字を模した社紋をレンガで装飾していることです。社紋付きの橋は全国的にみても珍しいものです。電車に乗る時には気付かない橋ですが、約120年前から現在に至るまで多くの乗客を運ぶ電車を支えているのです。

購入・問い合わせ

歴史文化財課 市史編さん室

〒86-80075 (甲南庁舎3階) FAX 86-8216

『甲賀市史』
第2巻販売中(1冊3,500円)

みんなの窓

「こちよ言葉」で「こちよ人間関係」を

今までに、誰かに言われたり、どこからか聞こえてきたり、自分が言ったりした後に、いやだなあと感じた言葉はありませんか。

「あほ」「死ね」「うざい」「むかつく」自分の苦しみや怒り、悲しみを周りの人たちに伝えようとして、これらの言葉を使ってしまふことがあります。

また、「おはようございます」と身近な人に声をかけたのに、相手が知らん顔をしていやな気分になったこともあると思います。挨拶しても声をかけても返事がない、自分だけが仲間はずれにされる、そんな関係が毎日続くと心を深く傷つけられてしまいます。

誰もが自分の存在を認めてほしいと願っています。何かをやり遂げたときに「よく頑張ったね」「ごろうさま」とねぎらいの言葉をかけられると、うれしいし、努力が報われたという気持ちになります。逆に一言もなければ、何か寂しい気持ちにもなります。

私たちは、時に失敗することがありますが、説明する機会もなく、頭ごなしに叱られたときは、とても悔しい気持ちになります。失敗の責任を感じる以上に、自分の存在や人格までもが否定されたような気分になります。その人の存在を認めることは人間関係においてとても大切なことな

のです。

もちろん、いやな気分のときにこちよ言葉が言えるわけではありません。お互いの思いを聞き合い、話し合うことが大切です。今、苦しいことがあるんだとまわりの人が理解するだけで、ずいぶんとお互いに気持ちが楽になるものです。苦しみや怒り、悲しみを伝えることと、相手を傷つけるような言葉を使うこととは、全く別のことなのです。

そこで、次のようなこちよ言葉を集めてみました。皆さんの家族や地域、職場で他にどんな「こちよ言葉」があるか話し合ってみましょう。

- あ ありがとう い いいですよ う うれしいわ
- え えらいね お おめでとう か がんばったね
- き 気がつくね く くじけないで け 元気ですね
- こ ごろうさま さ 最高 し しあわせ
- す すばらしい せ 成功 そ そのとおり ...

問い合わせ 人権推進課 ☎65-0693 FAX 63-4582